

	質問内容	本市からの回答
事業の意義について	他にも色々市民の為にすることがあるのではないのか？	明治初期、全国の城が廃城されていく中、姫路城と名古屋城は日本の城郭の見本であるとして永久保存されることになりました。また、名古屋城は、戦災により天守や本丸御殿をはじめ焼失してしまいましたが、先人たちの努力により豊富な史資料が残されており、往時の姿に復元することが可能です。 そのようなことから、平成30年6月に復元した本丸御殿や現存する隅櫓、門のほか、将来的には復元が可能なものは段階的に復元することで、名古屋城の象徴である本丸を江戸期の姿に再現し、特別史跡名古屋城跡の歴史や魅力を実体験していただける場所としていくこととしております。
	木造にする意味が本当にあるの？未来に向かって(古いもの再建でなくても)新しいものを造ってもいいんじゃない？	一方で、戦後、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された現在の天守閣は、昭和34年に竣工して約60年が経過しており、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりました。また、コンクリートの中性化の進行、設備の老朽化、外壁モルタルの剥離の恐れなどの課題もあります。 このような問題を解決するため、耐震改修などにより現天守閣を延命させる方法もありますが、外観のみならず内部構造に至るまで往時の姿に忠実に復元することが可能であることから、本市としては、江戸期を再現する本丸の中心として木造天守を復元する方針としております。
会の運営について	名古屋市は、昔の姿のままに復元する意味・価値をもっとPRしていくべきだと思う。(極論を言うと、一部のうるさい、さわいでいる人にひっぱられないように)	名古屋城天守閣木造復元事業の復元の意義について、今後も情報発信に努めてまいります。
	来場者に若い人がすごく少ないのですがその点はどう考えていますか？大丈夫ですか。 ・昨年度までは複数回開催されていたので都合の良いときに出席できましたが、今年度は1回のみ開催となりました。 ・いろいろ理由があると思いますが、来年度以降も1回だけの開催となるのでしょうか。 ・できたら、都合が悪い場合に備えて、最低でも2回開催していただくわけにはいかないでしょうか。 ・それができないのであれば、もっと早く開催予定日を公開してください。今年度は(確か)昨年12月(11月?)になっても、全然説明会の日程が公表されないの、今年度は実施しないのかな(?)とっていました。	今年度におきましては、NHK大河ドラマ「どうする家康」放映にちなみ開催した名古屋城シンポジウムにおいて、名古屋城天守閣木造復元事業についてもご説明させていただきました。今後も多くの方に事業へご理解いただけるよう、情報発信に努めてまいります。
スケジュール	文化庁の建築許可を得るのがまず大事業だと思いますがおよその日程・建築日程はどのくらいでしょうか。	文化庁からは、現天守閣解体と木造天守復元の現状変更許可手続きに先立つ復元検討委員会には石垣保存方針や基礎構造、バリアフリーの方針などを反映した「現天守閣解体と木造天守復元を一体とした全体計画」をある程度まとめることが必要であるとの指導をいただいております。 令和4年度末までに有識者との合意形成のもと全体計画を策定してまいりたいと考えており、全体計画が策定できれば、次のステップである復元検討委員会での議論に進むことが可能になると認識しております。 復元検討委員会は一旦開始されれば、途中で中断することなく議論が進められると聞いておりますが、復元検討委員会が始まっていない現段階では、木造復元の議論に要する期間の見通しは立てられず、完成時期を申し上げることができませんので、ご理解賜りたいと存じます。見通しが立ちましたら、市民向け説明会などを通してお伝えいたします。
	1日も早く天守閣を拝見したい。出来れば工程表を明示してください。	
	いつ完成するのですか？	
	家族みんな元気なうちに見てみたいと思っておりますが、あと何年ぐらいで復元できますか？	
	チチとして進まな理由を聞いたかったが話してくれなかった。いつごろできるのか。	
	復元に何年ぐらいかかるか想定でもいいのでおきかせください。	

	質問内容	本市からの回答
整備方針について	石垣等の調査の資料をまとめてWebに載せているならWebを知りたいです	<p>特別史跡名古屋城跡全体の整備について、専門的見地からの意見等を聴取することを目的とした有識者会議として、特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議を開催しています。その中で、特別史跡名古屋城跡の石垣の整備に関する事項を扱う部会として、石垣・埋蔵文化財部会にて、石垣等の調査についてご議論いただいています。石垣・埋蔵文化財部会の会議資料、議事録を、名古屋城公式ウェブサイト(「保存整備メニュー」内の「有識者会議」のページ)からご覧いただけます。URL: <a href="https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/plan_expert/">https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/plan_expert/</a></p> <p>また、名古屋城総合事務所調査研究センターでは、考古学・歴史学・建築史などの分野を横断した総合的な調査研究を推進し、特別史跡名古屋城跡の保存・活用を進めるとともに、その調査研究成果を情報発信しております。名古屋城公式ウェブサイト(「調査研究センターメニュー」内の「刊行物」のページ)から調査研究の報告書等をご覧いただけます。URL: <a href="https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/learn/center/1.html">https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/learn/center/1.html</a></p>
	戦災で焼け落ちた天守閣の石垣、強度は本当に大丈夫なの？使えるの？	<p>これまでに実施してきた現状把握する調査で、天守台及び周辺石垣において、現時点で何らかの対応の必要性を精査すべきと把握した課題・問題点を抽出し、それに対する対応方法の方針を整理しました。</p> <p>戦災により熱を受けた石材につきましては、有識者からは、劣化は表面のみにとどまっており、残存部は石材の凝集力を保っているのご意見も頂いていますが、表面の剥離や割れが進んでいるため、修理等の対応の必要性を検討していきますが、今後、具体的な修理の手法については、有識者等に相談しつつ検討を進めます。</p> <p>天守内部の地階となる穴蔵石垣の調査につきましては、これまでの調査により、穴蔵石垣の根石付近や穴蔵階の床面において江戸期の旧状を留めている部分があることを把握するとともに、石垣そのものやその背面は適切な構造を有しておらず、安定性が担保されているとは言えないことも把握しています。</p> <p>しかし、現天守閣のある状態での調査であるため、状況の把握ができた範囲が局所的にとどまらざるを得ないことから、現天守閣の解体後に現状を正確に把握するための調査を実施し、その結果を踏まえて石垣の安定性向上等の具体的な修復・整備方法を検討する方針としております。</p>
	現在の天守閣公開されていないのは残念です 地震対応ですか？	現在の天守閣は、平成8年度及び平成22年度に耐震診断を行ったところ、「地震の振動及び衝撃に対して、倒壊又は崩壊する危険性が高い」という極めて低い耐震性能であることがわかりましたことから、平成30年5月から閉館しております。
	国の審査機関の承認が得られる見通し、あるのか？	令和4年度末までに有識者との合意形成のもと「現天守閣解体と木造天守復元を一体とした全体計画」である「木造天守整備基本計画」を策定してまいりたいと考えており、全体計画が策定できれば、次のステップである文化庁の復元検討委員会での議論に進むことが可能になると認識しております。 <p>復元検討委員会での議論を経て文化庁へ現天守閣解体及び木造天守復元の許可を取得し、その後工事に着手することになります。「木造天守整備基本計画」の取りまとめができ、復元検討委員会での議論が始まれば、ある程度木造天守復元の許可の見通しが立ってくると考えております。</p>
	史実に忠実な復元となれば、バリアフリー等の安全確保(公開前提の設備設置)と矛盾するのではないかと。両立について回答されてはいるが、利用できる人数はとも少なそうである。	バリアフリーについては、「名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募」を実施し、昨年の12月に最優秀者を選定しました。 <p>今後の昇降技術開発の動向等も踏まえて、可能な限り史実に忠実な木造復元に最大限の意を払いつつどのようなバリアフリー対応が可能か、引き続きしっかり検討していきたいと考えております。</p>
	ところで名古屋城の搦手馬出の石垣修復も、やっとなら予算がつくようだが、早く元の姿に戻してもらいたいと思っています。そしてまた現場説明会をひらいて下さい。	本丸搦手馬出周辺石垣の修復工事につきましては、今年度より積み直し工事に着手する予定です。また、搦手馬出の石垣修復に関する市民向け説明会につきましても来年度以降、開催し、情報発信に努めてまいります。
天守のみの木造復元にとどまらず、本丸復元は果てしなく資金がふくらむのではないかと。櫓の復元とかの案も提示されているので。	本丸の整備基本構想では、近世期最高水準の技術により築城された名古屋城の象徴である本丸の姿を現代に再現することを基本理念としており、現存する石垣等の遺構や建造物等については、適切な維持管理と修復整備により確実に後世へ継承し、また、明治以降の改変や戦災等によって失われた石垣、土塁等の遺構、建造物等については、遺された史資料に基づき、それぞれの特徴を伝えられる姿で復元していくこととしております。 <p>今後は、将来的な方向性を示したこの基本構想を前提に、一つ一つ丁寧な調査・研究のもと、より具体的な計画としてその費用や時期等についても検討をしていくこととなります。</p>	
その他	<p>御殿本体の工事は平成20年に始まりました。襖絵や天井板絵等の障壁画についてはこれに先立ち平成4年から復元模写に着手し、ご質問にありますように現在も取り組んでいます。戦火を逃れた本物の障壁画(重要文化財であり嚴重に収蔵しています)や昭和初期の写真資料を参考に、また江戸時代の材料や技法を研究しながら、絵師が丹念に描いていますので、全てが完成するには、まだ一定の年数を要する見込みです。</p> <p>孔雀の間につきましては、孔雀が描かれていたことが部屋名の由来となっておりますが、障壁画は失われており、その他の資料も含め具体的な絵の構図等が不明です。従いまして復元することが不可能な状況です。</p>	
	30分前に会場に行ったら満席で入れてもらえなかった。事前申込みにすべきではなかったか。交通費を使ってアウトでは納得行かない。会場外でライブ放映するとか、満席の場合の対策を検討すべきだ。	令和5年1月28日に開催した「名古屋城シンポジウム」につきまして、多くのお客様にご来場いただき、満席となりました。当日ご来場いただいたにもかかわらず、ご参加いただけず誠に申し訳ありませんでした。今後の運営につきましては、今回の反省を活かして取り組んでまいります。

	質問内容	本市からの回答
バリアフリーについて	報道によれば名古屋城総合事務所の上田剛所長は「本年度中に基本計画を取りまとめ、新年度に文化庁に提出する」としているが、日弁連の2022年10月24日要望事項と、今般明らかにされた昇降機のための新技術の国際公募の結果(足掛け3年、ステップナゴヤ新設に約1億円の経費をかけた)では、矛盾は解決されておらず、結果として現代技術では「史実に忠実な復元」と「法に準じたバリアフリーの実現」は両立し得ないことが明らかとなった。木造化の是非を含め、計画の見直しを行うべきである。	令和4年4月18日から開始しておりました「名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募」におきまして、史実に忠実な復元とバリアフリーの両立をさせるため、柱・梁を傷めずに設置可能な昇降技術を募り、車いす利用者1名と介助者1名が搭乗できる垂直昇降技術を選定いたしました。本市としましては、関係法規を遵守しながら名古屋城天守閣整備事業を着実に推進してまいりますので、ご理解賜るようお願い申し上げます。
	多額の費用をかけ、国際的な公募まで行った昇降機技術について、一部の階層への昇降にとどまり、特に日弁連が求めている人権救済の申立を満足させていない。 <a href="https://www.nichibenren.or.jp/document/complaint/year/2022/221024.html">https://www.nichibenren.or.jp/document/complaint/year/2022/221024.html</a> 地上から1階へのアクセスを公募条件としなかったことで、車椅子利用者は事実上中に入れないということであり、公募条件自体が酷く歪んでいる。今回の公募によって、現代の技術では「史実に忠実な再建」と、「人権に配慮した公共建築の条件」とは両立しないことが明確となった。これ以上の浪費を防止するためにも、即座に計画を中止すべきである。	
	名古屋城天守には広島大学名誉教授三浦正幸教授がエレベーター等は、付けるのは難しいと言われてはいますが、どの様なお考えでしょうか？	
	エレベーター問題の深さが判った。バリブレも必要なのか？	
	姫路城、松本城は障害者の方にどう対応しているのですか？	
バリアフリーについて	バリアフリー化について、議論が激しくなっていますが1%の見学者に対する対応に、どれ位の予算の増加があるのかはとても気になります。	「名古屋城木造天守の昇降技術に関する公募」において選定した昇降技術につきましては、最優秀者からは開発に約7,900万円、導入に約19,800万円でご提案いただいております。
	・バリアフリー等の対応が必要な名古屋城入場者の割合について、平成30年度は1%と回答されていましたが、この根拠となる内容を具体的にお示しください。 ・確か、質問は元々「車いすの人の割合」だったと思いますが、この1%という回答は「障がい者割引適応者」ではないのでしょうか。 ・私としては「車いす」等のためエレベーターが本当に必要な人がどれくらいいるのか教えていただきたいと思っております。	平成30年度の1月から4月にかけて、閉館前の現天守閣への車いす利用者の入城状況について調査いたしました。その調査結果によりますと、約0.1%程度の割合で車いす利用者がいらっしゃる結果となっております。市民向け説明会においては、ご指摘のとおり「車いすの人の割合」との質問でしたので、割合は約0.1%の誤りでございます。お詫びして訂正いたします。なお、エレベーターが必要な方が具体的に何名いるかというご質問につきましては、高齢者の方や小さなお子様をお連れの方など、エレベーターを必要とされる方は様々であり、そのような方がどの程度入城されているのか調査はしておりませんので、ご理解賜りたいと存じます。
	観光目的・名古屋の活性化への期待等の話が世論の大半のように感じられる。本日の説明ではギャップが大きいと感じるが、いかがなものか。	本説明は、市民の皆様にご覧いただき名古屋城天守閣木造復元事業の進捗状況をお伝えし、ご理解を高めていただくものでございます。名古屋城天守閣木造復元事業について、今後も、分かりやすい情報発信に努めてまいります。
目標・運営について	寄附を募るのなら、どのように生かされるのか透明化は必須。同意を得られるようにどのようにアピールしているのか。	市民向け説明会をはじめ、名古屋城公式ウェブサイト等にて寄附金の実績を掲げさせていただいております。今後も、木造天守復元に向け、機運醸成に努めてまいります。 URL: <a href="https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/tenshu_information/">https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/tenshu_information/</a>
	世界の状況が日々変わる今日、費用の面の上昇が考えられるがどうするのか？	株式会社竹中工務店と事業費約500億円を上限額とする基本協定を締結しているところですが、その上限額の範囲内で事業の実現に努めてまいります。
	限りある財源・税金の使い方として、他の福祉予算等を圧迫させてしまう恐れがあるが、他に優先すべき事業がないがしろになるのではないのか。	事業費につきましては、市債、一般会計借入金、寄附金等を財源としており、木造天守復元後の入場料収入で賄うとしております。名古屋城天守閣木造復元事業については、観光面・文化面において中核をなす事業であり福祉等と同様に重要であると認識しておりますので、ご理解賜りたいと存じます。